

【中学校 社会】

単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準			※枠内は定型文例と□は評価内容
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<p>【地理】我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地域的特色を理解しているとともに…</p> <p>【歴史】我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに…</p> <p>【公民】個人の尊厳と人権の尊重の意義、特(中略)個人と社会との関わりを中心に理解しているとともに…</p> <p>【共通】諸資料から〇〇に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p>	<p>【共通】…多面的・多角的に考察したり、〇〇に見られる課題を～公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。</p>	<p>【地歴】～について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決(※)しようとしている。</p> <p>【公民】現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>	<p>見通し</p> <p>学習状況の確認 課題の追究</p> <p>社会参画</p>

「知識」は、個別の事象などの知識のみに留まるものでなく、比較、分析、総合といった考える活動の結果として(考察した結果)として理解すべき内容。

「技能」については、その系統性や生徒自身の習熟を考慮した上で、適宜適切な形で評価場面を設定する。

【歴史】は、各中項目で時代を大観して、その特色を多面的・多角的に考察し、表現する場面を設定するなどして評価する。

※「解決」の文言は、「構想する」活動がある学習のみで、他は、「追究しようとしている」の表記が基本となる。

【公民】では、特に、単元の学習後も、関心をもって自ら追究し続けたい、解決したい、改善を図っていきたいということをもつことができたかどうかによって評価する。

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動	
つかむ	<p>1 単元の課題を把握する。</p> <p>◇社会的事象と出合い、疑問や調べたいことをもつ。</p> <p>◇単元の課題を立てる。</p> <p>【単元の課題】 〈単元の目標に到達するための大きな問い〉</p> <p>◇単元の課題について予想し、整理する。</p> <p>◇追究内容や方法、学習計画を明確にする。</p>
追究する	<p>2 単元の課題の解決に向け、<u>単位時間ごと</u>に追究する。</p> <p>単位時間</p> <p>【めあて】</p> <p>◇追究内容、方法を確認する。</p> <p>◇必要な情報を集め、読み取る。</p> <p>◇情報を基に考察する。</p> <p>※社会的事象の (学級全体) 具体的な事実に関する知識の習得</p> <p>【振り返り】(個人)</p> <p>単位時間</p> <p>単位時間</p> <p>単位時間</p>
まとめる	<p>3 単元の課題についてまとめる。</p> <p>◇単位時間ごとに学習したことを基に<u>結論</u>について話し合う。</p> <p>◇学習してきたことを基に、構想(選択・判断)する ※学習内容に応じて設定</p> <p>〈単元のまとめ〉 (学級全体) ※社会的事象に関する概念に関する知識の習得</p> <p>◇単元全体の振り返りをする。</p> <p>◇単元全体の振り返り (個人)</p>

〈例〉評価の位置付け		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
	<p>【思判表】 課題の把握</p>	<p>【主体態】 見通し</p>
<p>単位時間</p> <p>各単位時間で重点を置く評価の観点、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。</p>		
<p>【知技】</p>	<p>【思判表】 多面的・多角的な考察</p>	<p>【主体態】 学習状況の確認 課題の追究</p>
<p>※単位時間の中で、全ての観点について、評価することはありません。</p>		
	単位時間	
<p>【知技】</p>	<p>【思判表】 構想(選択・判断)</p>	<p>【主体態】 社会参画</p>
<p>【知技】</p>	<p>【思判表】 多面的・多角的な考察</p>	<p>【主体態】 学習状況の確認 課題の追究</p>

はばプランⅡに示されるような「問題解決的な学習」の単元構想でない限り、評価規準に示される学習状況の評価をすることはできません。

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、生徒の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

- 目標の実現状況が生徒の反応から顕著に見られる場面を精選します。
- 社会科の知識・技能と思考・判断・表現は、継続的に指導を積み重ねた結果としての学習状況との捉え、学習過程の後半での、記録が多くなることが考えられます。